

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和1年7月31日※1
(前回公表年月日:平成30年5月1日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地													
専門学校 ヒコ・みづの ジュエリーカレッジ		昭和54年5月1日		水野 倫理		〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-29-2 (電話) 03-3499-0350													
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地													
学校法人水野学園		昭和58年4月1日		水野 孝彦		〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-29-2 (電話) 03-3499-0350													
分野	認定課程名		認定学科名			専門士	高度専門士												
文化・教養	宝石専門課程		ジュエリーデザイン科 (アドバンスドジュエリーコース)			—	平成18年文部科学省告示第88号												
学科の目的	ジュエリーデザイン科アドバンスドジュエリーコースは、ジュエリー・アクセサリー業界、宝飾工芸界において、商品開発(企画・デザイン・製作)ならびに商品販売、および関連する商品知識を持った人材、または起業する人材を育成することを目的とする。																		
認定年月日	平成28年2月19日																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技												
4年	昼	4544	76	128	5092	0	1112												
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数													
96		127	45	5	2	7													
学期制度	■前期 4月1日～9月30日 ■後期 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価基準は、90点以上をA、80点以上90点未満をB、70点以上80点未満をC、60点以上70点未満をD、59点以下はF(不可)とする。また評価には値しないが習得レベルに達したと判断された場合はPとする。 成績評価は、課題物評価、試験等により行う。														
長期休み	■夏期休業 8月1日～8月31日 ■冬期休業 12月20日～1月10日 ■春期休業 4月1日～4月14日			卒業・進級条件	・学校長および教職員による卒業・進級判定会議において認定されること。以下の①～④を総合的に判断して認定する。 ①課題物評価 ②出席率 ③授業態度 ④成績 ・学費を完納していること。														
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ① クラス担任制および専用学生窓口を設け、学生が話しやすい環境を整えている。 ② 履修不良の学生に対して、個別の放課後指導・追試等を実施している。 ③ 公的奨学金、学校独自の奨学金制度を導入している。 ④ 学校提携の心理カウンセラーによるカウンセリングが受けられる体制を整えている。			課外活動	■課外活動の種類 国内外コンテスト参加、学園祭、海外研修旅行 など														
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) (株)ミキモト、(株)emデザイン、(株)A&S など ジュエリー業界、ファッション業界等への就職			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■サークル活動: 無														
	■就職指導内容 進路希望調査、就職ガイダンス、ビジネスマナー・身だしなみ講座、業界研究、ポートフォリオ制作指導、履歴書添削、エントリーシート添削、模擬面接、学内企業説明会、企業見学会、学生企業マッチングイベント など				■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業者に関する令和元年5月1日時点の情報)														
					<table><tr><td>資格・検定名</td><td>種別</td><td>受験者数</td><td>合格者数</td></tr><tr><td>貴金属装身具技能 検定2級</td><td>②</td><td>14人</td><td>4人</td></tr><tr><td>貴金属装身具技能 検定3級</td><td>②</td><td>29人</td><td>15人</td></tr></table>			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	貴金属装身具技能 検定2級	②	14人	4人	貴金属装身具技能 検定3級	②	29人	15人
	資格・検定名	種別	受験者数		合格者数														
	貴金属装身具技能 検定2級	②	14人		4人														
	貴金属装身具技能 検定3級	②	29人		15人														
	■卒業者数 : 38 人				※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。														
	■就職希望者数 : 26 人				①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの														
■就職者数 : 26 人			②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの																
■就職率 : 100 %			③その他(民間検定等)																
■卒業者に占める就職者の割合 : 68.4 %			■自由記述欄																
中途退学の 現状	■中途退学者 6 名 平成30年4月1日時点において、在学者132名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者126名(平成31年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 経済上の理由、健康上の理由、就学・通学困難 など			■中退率 4.5 %															
	■中退防止・中退者支援のための取組 担任制、出席状況・課題提出状況を書いた保護者通知の発送(年2回)、学校長メールアドレスの全学年公開、専門医によるカウンセリング、学生相談、個別面談など。中退者からの希望があれば、就職支援のための個別相談を実施。中途採用求人の公開 なども実施している。																		
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 「3年次学費減免制度」「新入生奨学金制度」「再進学奨励制度」「教育ローン補助制度」「親族奨学金制度」「留学生奨学金制度」 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																		
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																		
当該学科の ホームページ URL	https://www.hikohiko.jp/about_info																		

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ジュエリー・アクセサリ業界において、商品開発(企画・デザイン・製作)ならびに商品販売、および関連する商品知識を持った人材、または起業する人材を育成するために、同業界の企業と連携して以下の①～④を踏まえた教育課程の編成を行う。具体的には、新たな科目の設定、既存科目の内容・教育手法の改善、教材の開発、ジュエリーデザイナー、製作者、販売スペシャリストとして必要となる知識や技術など実践的かつ専門的な職業教育の実施に向けた協議・検討することを基本方針とする。

- ①新商品企画に関するマーケットリサーチや商品開発力の育成
- ②各種PCソフトや3DCADデザイン技術を含めた、商品デザイン力の育成
- ③オーダーメイドから量産までに対応する商品製作の技術力の育成
- ④商品の販売に関わる流通や店舗企画力、顧客対応力の育成と、関連する商品知識の習得

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、本学設置コースに該当する各業界において、その専門知識を持った人材を育成するために、各業界企業等と教育課程の編成や授業内容・方法、教材等について協議・検討を行う委員会であり、全学科合同で開催している。

委員会は、学校側から学校長・教育部長・学科責任者等、産業界からは各業界企業および業界団体によって委員が構成され、学校長に直結する諮問委員会として位置づけられる。

委員会でまとめられた意見は、学科の教育改善に優先的に反映されるべきものであるが、実習環境や教育インフラ(人的要素・執行予算等)といった経営資源の観点を考慮し、最終的には学校長または経営会議(本学校法人運営会議)に諮り決定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和1年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
西田 良洋	(一社)日本ジュエリー協会	2019年4月1日～2021年3月31日	①
竹岡 一男	(一社)日本時計協会	2019年4月1日～2021年3月31日	①
飯嶋 薫	(一財)ファッション産業人材育成機構	2019年4月1日～2021年3月31日	②
横山 裕	(株)桑山	2019年4月1日～2021年3月31日	③
藤田 大	共栄産業(株)	2019年4月1日～2021年3月31日	③
大澤 重仁	(株)シャミオール	2019年4月1日～2021年3月31日	③
野村 俊一	(有)野村製作所	2019年4月1日～2021年3月31日	③
水野 倫理	専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ 学校長	2019年4月1日～2020年3月31日	
酒匂 博	学校法人水野学園 教育部長	2019年4月1日～2020年3月31日	
松山 英一	学校法人水野学園 総務部長	2019年4月1日～2020年3月31日	
飯塚 ひろ子	専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ ジュエリーデザイン科(ジュエリー系) コース責任者 シューメーカー科、バッグメーカー科 コース責任者	2019年4月1日～2020年3月31日	
齋藤 良	専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ ジュエリーデザイン科(ジュエリー系) コース責任者	2019年4月1日～2020年3月31日	
大友 宏幸	専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ ジュエリーデザイン科(ウォッチ系) コース責任者	2019年4月1日～2020年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回（8月、3月）

(開催日時(実績))

第1回 平成30年8月27日(月) 13時～15時

第2回 平成31年3月5日(火) 13時～16時

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

「メーキング造形実習Ⅲ-5(テーマからのジュエリー制作Ⅱ)」の科目において業界でも必要なツールであるCADを積極的に取り入れた方がよいとの指摘があった。CADソフトをより多くの学生が使用できる環境を整える改善を行った。さらに学生の質問に多くの教員が応えられるよう教員向けのCAD研修会を開催した。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

多様化するジュエリーマーケットの現状を把握し、業界において即戦力をもった人材を育成するために、連携する企業より商品の企画から製品化までの流れを享受ならびに学生作品の評価を受けることを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ・企業側が求めている人材育成を見据えたテーマの提示とテーマ解説
- ・デザイン提案へのアドバイス及び講評
- ・実作品より優秀賞の選出
- ・業界向け展示会への出展協賛
- ・完成作品への総評

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
デザイン造形実習Ⅲ-4 (ターゲットを絞ったデザイン提案Ⅱ)	提提示されたジュエリーブランドリサーチを行い、その結果から、企業に向けて提案するジュエリーのデザインまでを学習する。	株式会社 桑山
メーキング造形実習Ⅲ-5 (テーマからのジュエリー制作Ⅱ)	与えられたいくつかのテーマよりオリジナルジュエリーを制作する工程を学習する。	株式会社 桑山

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

- ・別途定められている「学校法人水野学園 教員研修規定」に基づき、定期的かつ組織的に研修を実施している。
- ・実務に関する知識、技術、技能などの向上のため、同業界から各職種の専門家による実践的技術・知識の研修を規定に則して計画的に実施する。
- ・指導力の習得・向上のため、人材開発や教育指導力の教育専門機関による研修を規定に則して計画的に実施する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「企業セミナーⅠ」(連携企業等:LVMH&Jewelry Japan)
期間:平成30年4月5日(木) 対象:本校ジュエリー/シューズ/バッグコース 全教員
内容:ラグジュアリーブランドLVMHの商品ライン、販売スタッフの役割やその研修内容を拝聴し、最新のデザイン傾向の理解と販売スタッフとして必要な知識を再確認する。

研修名「企業セミナーⅡ」(連携企業等:株式会社博報堂)
期間:平成30年4月5日(木) 対象:本校ジュエリー/シューズ/バッグコース 全教員
内容:博報堂生活者アカデミーが提唱する「生活者発想」から、創造的に働くことについてQ&A方式で考える。企業の発想の仕方を理解することで授業企画にも応用ができる。

研修名「2019トレンドセミナー」(連携企業等:SWAROVSKI GEMSTONES (シグニティー・ジャパン))
期間:平成30年5月7日(月) 対象:本校ジュエリーコース 全教員
内容:社会情勢を基にリサーチ分析した2019年のジュエリー独自のトレンド内容について、情報を共有した。

研修名「欧州プロダクトデザインの現場」(連携企業等:大学講師ネダ・エル・アスマー氏)
期間:平成30年7月23日(月) 対象:本校ジュエリーコース 全教員
内容:ベルギー・アントワープ王立芸術大学講師による大学の現状を拝聴した後、ヨーロッパのプロダクトデザイン実践における大切なことと学生指導への繋がりを学んだ。

研修名「知的財産権セミナー」(連携企業等:アスミル特許事務所)
期間:平成30年8月24日(金) 対象:本校ジュエリーコース 全教員
内容:ジュエリーにおける知的財産権の詳細や、具体的な申請方法を教授いただいた。学生に作品の意匠登録を勧めるなど、知的財産を生み出す指導者として、専門的かつ現実的な内容を学んだ。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「ヒューマンエレメントプログラム」(連携企業等:株式会社ビーコンラーニングサービス)
期間:平成31年3月7日(木) 対象:本校 全教員
内容:クラスマネジメント力の向上を目的とし、①コミュニケーションの重要性を再確認する。②ヒューマンエレメントプログラムを活用して自己理解・他者理解を深める。③ケーススタディを通じてクラスマネジメントの向上を目指す。を目標に、講義・演習を行った。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ジュエリー企業研究」(連携企業等:株式会社エーアンドエス)
期間:令和1年5月24日(木) 対象:ジュエリー全教員
内容:ジュエリー企業の各部署の役割やチームワークをテーマに企業の新しい取り組みを知る。

研修名「ブライダル市場の現状」(連携企業等:株式会社リクルートマーケティングパートナーズ)
期間:令和1年8月23日(金) 対象:ジュエリー全教員
内容:ブライダル市場の現状と、カスタマー像の結婚意識について理解する。

研修名「ジュエリーリフォームの現状について」(連携企業等:株式会社ジュエリーアセットマネジャーズ)
期間:令和1年8月23日(金) 対象:ジュエリー全教員
内容:ジュエリーリフォーム市場の現状と、主力のデザインについて学習する。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「インストラクション研修」(連携企業等:株式会社ビーコンラーニングサービス)
期間:令和2年3月18日(水) 対象:本校 全教員
内容:全教員を対象にインストラクションの在り方を見直し、実習・実演を通して、お互いの指導力向上を目指す。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校では、各専攻分野の関連企業、関連団体、ならびに本校の関係者を評価委員として、学校関係者評価委員会を組織する。同委員会では、本校自己点検・自己評価報告書に基づき、学校の運営状況や当該学科の教育状況、進路状況、学校全体の設備や運営状況などに関する自己評価結果を報告し、各委員より自己評価結果の評価を受け、自己評価結果の妥当性・客観性・透明性を高めるとともに当該学科への理解促進や連携協力による今後の運営や教育の改善等を図る

ことを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか／学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	教育理念・目的等に沿った運営方針を定めているか／中長期的な事業計画を定めているか／運営組織や意思決定機能は明確化されているか、また有効に機能しているか／人事・給与に関する規定等は整備されているか／情報システム化等による業務効率化が図られているか
(3)教育活動	各コースのカリキュラムは目標が設定されているか、また体系的に編成されているか／教育方法は適正か、また授業評価の実施・評価体制はあるか／育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか／教員組織体制が確立しているか、また教員間の連携・協力体制を構築しているか／成績評価や進級・卒業認定の基準は明確になっているか／資格取得の指導体制はあるか
(4)学修成果	就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか／資格取得率の向上が図られているか／在校生・卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	就職・進学指導に関する体制は整備されているか／中途退学者が継続して学びたい場合の支援体制、または代替えコースが設置されているか／学生相談に関する体制は整備されているか／学生の経済的側面に対する支援体制が整備されているか／学生の健康管理を担う組織体制が整備されているか／保護者と適切に連携しているか／卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか／学外学習やインターンシップなどの教育体制を整備しているか／防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動は、適正に行われているか／入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか／学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか／予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか／財務について会計監査が適正におこなわれているか／財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	関係法令・設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか、また個人情報保護に関して十分な対策が練られているか／自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか／学校関係者評価委員会を実施しその結果を公開しているか／教育情報の公開は適正に行われているか
(10)社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか／学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	留学生の受入れ・在籍管理等において適切な管理体制が整備されているか／グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みが行われているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

項目全体としては一定の評価が得られた。

「項目1 教育理念・目的・育成人材像等」では、アドミッションポリシー、ディプロマポリシーの明文化および公表についての検討を求められたことを受け、次年度に明文化し、HP上にて公表するに至った。

「項目10 社会貢献」において、学生のボランティア活動支援についてアドバイスをいただき、学生向けWEBサイトや学内

掲示を通じて積極的に奨励するに至った。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和1年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
西田 良洋	(一社)日本ジュエリー協会	2019年4月1日～2021年3月31日	企業等委員
竹岡 一男	(一社)日本時計協会	2019年4月1日～2021年3月31日	企業等委員
飯嶋 薫	(一財)ファッション産業人材育成機構	2019年4月1日～2021年3月31日	企業等委員
横山 裕	(株)桑山	2019年4月1日～2021年3月31日	企業等委員
藤田 大	共栄産業(株)	2019年4月1日～2021年3月31日	企業等委員
大澤 重仁	(株)シャミオール	2019年4月1日～2021年3月31日	企業等委員
野村 俊一	(有)野村製作所	2019年4月1日～2021年3月31日	企業等委員
吉田 昌充	東日本ハンドバッグ工業組合	2019年4月1日～2021年3月31日	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL: https://www.hikohiko.jp/about_info

公表時期: 令和1年9月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育理念をはじめ、育成人材像、当該学科の教育内容などに加え、施設設備、財務状況、学校組織図などの運営内容についても本学ホームページや学校案内などの冊子に掲載する。また、学生の教育成果として、毎年展示会や発表会を実施する。

これらを実施するにあたり、来場者を促す取り組みとして、業界各企業団体、在校生や保護者、入学希望者、卒業生など、関係者の理解を深め連携および協力の促進に資するため、積極的に情報を提供することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育目的／校長名／所在地／連絡先／沿革・歴史／教育理念
(2) 各学科等の教育	入学者に関する事項(出願条件、入学者数、卒業・成績評価基準等)／カリキュラム／進級・卒業の要件等／資格・検定試験合格実績／卒業後の進路
(3) 教職員	教職員数／教職員の組織／教員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況／実習・実技等の取組状況／就職支援等への取り組み状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取り組み状況／課外活動
(6) 学生の生活支援	学生支援の取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い／活用できる経済的支援措置
(8) 学校の財務	学校財務の状況等
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果／評価結果を踏まえた改善方策
(10) 国際連携の状況	—

(11)その他	—
※(10)及び(11)については任意記載。	
(3)情報提供方法	
(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())	
URL: https://www.hikohiko.jp/about_info	

授業科目等の概要

(宝石専門課程ジュエリーデザイン科 アドバンスドジュエリーコース) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			デザイン基礎実習Ⅰ－1 (パース技法 基礎Ⅰ)	透視図法の基本を習得し、ジュエリーレンダリングの基礎を学習する。	1前	40				○	○		○		
○			デザイン基礎実習Ⅰ－2 (デザイン展開基礎)	具象物をモチーフにし、ジュエリーにおけるデザイン展開の方法や、二面図による製図表現を学習する。	1前	32				○	○		○		
○			デザイン基礎実習Ⅰ－3 (パース技法 基礎Ⅱ)	透視図法を応用し、ジュエリーレンダリングにおける基礎とその表現方法を学習する。	1前	32				○	○		○		
○			デザイン基礎実習Ⅰ－4 (ジュエリーデザイン基礎Ⅰ)	ジュエリー独特の立体表現を理解し、様々なデザインリングの表現方法を学習する。	1後	48				○	○		○		
○			デザイン基礎実習Ⅰ－5 (宝石表現)	ジュエリーデザイン画の描き方や、宝石表現方法の基礎を学習する。	1後	40				○	○		○		
○			デザイン基礎実習Ⅰ－6 (リサーチからのデザインⅠ)	ジュエリーショップをリサーチし、設定ターゲットに合わせたセットジュエリーのデザイン展開や、プレゼンテーションを学習する。	1後	64				○	○		○		
○			宝石研磨	原石のカットからポリッシングまでの基礎を学習する。	1後	24				○	○		○		
○			コンピューター演習Ⅰ－1 (CADによるリング制作基礎)	CADソフトの基本的な操作と、出力した立体造形物の制作工程の基礎を学習する。	1通	32			○		○		○		
○			メーキング基礎実習Ⅰ－1 (リング制作 基礎)	基本形状のリング制作を通して、ジュエリーメーキングの基礎技法と使用工具の名称や取り扱いを学習する。	1前	96				○	○		○		
○			メーキング基礎実習Ⅰ－2 (ワックス造形 基礎)	ワックス素材の種類や特性を理解し、ワックスによる原型制作の方法および鑄造の基礎知識と仕組みを学習する。	1前	72				○	○		○		
○			メーキング基礎実習Ⅰ－3 (覆輪留め技法)	覆輪留め技法による1個石リングの制作工程および仕上げ方法を学習する。	1前	32				○	○		○		
○			メーキング基礎実習Ⅰ－4 (爪留め技法)	爪留め技法による1個石のペンダント制作を通して、パチカンを含めた制作工程および仕上げ方法を学習する。	1後	56				○	○		○		
○			メーキング基礎実習Ⅰ－5 (立体造形 基礎Ⅰ)	粘土・WAXの2種類の材料を使用し、具象物を模刻することで造形力の基礎を学習する。	1前	32				○	○		○		

○		メーキング基礎実習Ⅰ-6 (立体造形 基礎Ⅱ)	紙を材料とし、切る・折り曲げるなどのシンプルな技法のみを用いた立体造形の可能性を探求し、その造形表現を学習する。	1 前	32				○	○		○		
○		メーキング基礎実習Ⅰ-7 (カーウィング技法 基礎)	硬質発泡スチロールを材料とし、カーウィング技法を用いた立体造形を学習する。	1 後	40				○	○		○		
○		メーキング造形実習Ⅰ-1 (異素材の探求)	貴金属以外の素材や様々な技法の可能性を探求し、ジュエリーアイテムにおける展開方法と表現方法を学習する。	1 前	64				○	○		○		
○		メーキング造形実習Ⅰ-2 (ブローチ制作 基礎)	ブローチやブローチピンの種類や構造、その基礎的な制作工程および仕上げ方法を学習する。	1 後	32				○	○		○		
○		メーキング造形実習Ⅰ-3 (オリジナルジュエリー制作Ⅰ)	各々の表現意図および制作条件等を考慮した上での作品制作を学習する。	1 後	96				○	○		○		
○		メーキング造形実習Ⅰ-4 (プレートからのジュエリー制作)	切り回し、擦り合わせ、ロウ付け作業などの基本的な技法を用いた、平面素材からのジュエリー制作を学習する。	1 前	32				○	○		○		
○		メーキング造形実習Ⅰ-5 (ブレスレット・ピアス制作)	線の構成によるブレスレット及びピアスの制作工程を学習する。	1 後	64				○	○		○		
○		メーキング造形実習Ⅰ-6 (オリジナルジュエリー制作Ⅱ)	自分で研磨した石を石留めしたオリジナルジュエリー制作を通して、素材の形や特性をいかしたデザイン・造形表現を学習する。	1 後	72				○	○		○		
○		宝石学A-1 (宝石の基礎知識)	宝石の基礎知識。硬度や輝きなどの宝石に関係する基礎的な物理・光学的性や、宝石を種類別にそれぞれの知識について学習する。	1 通	40		△		○	○		○		
○		学外研修	ジュエリー・宝石関連等の販売会・美術館・展示会場等の見学または参加を通じて、デザイン・制作知識および生産・流通・販売等の業界知識について学習する。	1 通	40				○			○	○	
○		スピードテスト・基礎知識テスト	基礎的なジュエリーの制作・デザイン・宝石・ビジネスに関わる知識を学習する。	1 後	12		△		○	○		○		
○		特別セミナーⅠ	本学創立の歴史や学園の遍歴を通してその学園理念を学習する。	1 後	4		○					○	○	
	○	自主研修／自由制作	習得した技術をさらに向上させるため、自主的に研究・学習する。	1 通	136				○	○		○		
○		デザイン基礎実習Ⅱ-1 (着彩表現)	実践的なパールやダイヤモンドメレーを使用したジュエリーの着彩表現を学ぶ。近代デザイン史を通して、デザイン様式の基礎を学習する。	2 前	32				○	○		○		
○		デザイン造形実習Ⅱ-1 (レンダリング 応用Ⅰ)	様々な対象に合わせてジュエリーをデザイン。モデルの画像に直接レンダリングを描く表現を学習する。	2 前	32				○	○		○		
○		デザイン造形実習Ⅱ-2 (ポートフォリオⅠ)	金を使用したオリジナルデザインリングのアイデアスケッチ、制作工程、完成状態を一冊のカタログにする方法を学習する。	2 後	48				○	○		○		

○		デザイン造形実習Ⅱ－3 (立体造形 応用)	ケント紙を使用して、ジュエリーの代表的なモチーフのひとつであるアルファベットを制作する。立体感の重要性を学習する。	2 前	32				○	○		○		
○		デザイン造形実習Ⅱ－4 (商品デザイン)	素材と形の組み合わせによる商品デザイン。素材を変えることで商品のイメージがどう変化するかを学習する。	2 後	40				○	○		○		
○		デザイン造形実習Ⅱ－5 (商品企画・提案/PCスキルⅠ)	他業種がジュエリーを新開発することを想定し、商品の企画提案を行う。パワーポイントを用い、プレゼンテーション手法について学習する。	2 後	40				○	○		○		
○		デザイン造形実習Ⅱ－6 (ターゲットを絞ったデザイン提案Ⅰ)	身近な対象者を1人選び、対象者の分析、インタビューから、対象者に贈るジュエリーをデザインする方法を学習する。	2 後	32				○	○		○		
○		コンピューター演習Ⅱ－1 (CADによるリング制作 応用)	CADソフトを使用してのジュエリー制作応用を学習する。	2 通	32			○		○		○		
○		メイキング基礎実習Ⅱ－1 (彫り留め技法)	彫りタガネによるマス留め、パヴェ留めを学習する。	2 前	48				○	○		○		
○		メイキング基礎実習Ⅱ－2 (色金)	四分のリングに色金を象嵌し象嵌技法の工程を学習する。	2 前	32				○	○		○		
○		メイキング造形実習Ⅱ－1 (ゴールドジュエリー制作)	金を素材とし金とは何かを考えオリジナルなリングを制作する工程を学習する。	2 後	168				○	○		○		
○		メイキング造形実習Ⅱ－2 (象嵌と打ち出し技法)	色金による象嵌と打ち出し技法を習得しオリジナルなブローチを制作する工程を学習する。	2 前	128				○	○		○		
○		メイキング造形実習Ⅱ－3 (七宝技法)	七宝の基本的な技法を習得しオリジナルなペンダントトップを制作する工程を学習する。	2 後	120				○	○		○		
○		メイキング造形実習Ⅲ－4 (カービングテクニックⅠ)	象牙を素材としカービングによるオリジナルなペンダントを制作する工程を学習する。	2 後	168				○	○		○		
○		メイキング造形実習Ⅲ－5 (テーマからのジュエリー制作Ⅰ)	企業からのテーマをもとにオリジナルなジュエリーを制作する工程を学習する。	2 後	120				○	○		○		
○		宝石学A-2 (ダイヤモンドの基礎知識)	ダイヤモンドに関する知識と実技実習。ダイヤモンドの全般的な知識と顕微鏡等の器具を用いた評価法の実技実習を学習する。	2 通	40		△		○	○		○		
○		学外研修	ジュエリー・宝石関連等の販売会・美術館・展示会場等の見学または参加を通じて、デザイン・制作知識および生産・流通・販売等の業界知識について学習する。	2 通	24				○		○	○		
	○	自主研修／自由制作	習得した技術をさらに向上させるため、自主的に研究・学習する。	2 通	136				○	○		○		
○		デザイン造形実習Ⅲ－1 (自己プロモーション)	これまでの作品や、スクラップブックの制作等を通して自己表現の可能性を探ることによって自己分析方法を学習する。	3 前	64				○	○		○		

○		デザイン造形実習Ⅲ－2 (オリジナルデザイン)	企業の新商品デザインの提案をコンペティション形式で行うデザイン実習。今の時代に求められているデザインとは何かを考え企画提案する。	3 前	32				○	○		○		
○		デザイン造形実習Ⅲ－3 (立体造形)	ひとかたまりの材料を削り出すことにより、美しい造形を制作する。ボリューム感を大切にしたいデザインを学習する。	3 後	56				○	○		○		
○		デザイン造形実習Ⅲ－4 (ターゲットを絞ったデザイン提案Ⅱ)	提示されたジュエリーブランドリサーチを行い、その結果から、企業に向けて提案するジュエリーのデザインまでを学習する。	3 通	32				○	○		○		○
○		デザイン造形実習Ⅲ－5 (ポートフォリオⅡ)	イラストレーター、フォトショップを使用して自分の作品をまとめたポートフォリオを作成。制作方法、装丁方法を学習する。	3 後	72				○	○		○		
○		メイキング基礎実習Ⅲ－1 (海外作家ワークショップ)	海外作家によるワークショップの中で与えられたテーマでジュエリーを制作する工程を学習する。	3 前	40				○	○		○		
○		メイキング造形実習Ⅲ－1 (洋彫り/ニエロ技法)	洋彫りとニエロ技法によるオリジナルなブローチをデザインし、制作する工程を学習する。	3 前	176				○	○		○		
○		メイキング造形実習Ⅲ－2 (フィリグリー/グラニュレーション)	フィリグリーとグラニュレーションを施したオリジナルなジュエリーを制作する手順を学習する。	3 前	136				○	○		○		
○		メイキング造形実習Ⅲ－3 (展示販売会商品制作)	展示販売会用のオリジナルジュエリーの企画から制作、販売までの生産工程を学習する	3 後	160				○	○		○		
○		メイキング造形実習Ⅲ－4 (カービングテクニックⅡ)	芝山技法と象牙を使用してオリジナルジュエリーを制作する手順を学習する。	3 後	176				○	○		○		
○		メイキング造形実習Ⅲ－5 (テーマからのジュエリー制作Ⅱ)	与えられたいくつかのテーマよりオリジナルジュエリーを制作する工程を学習する。	3 後	120				○	○		○		○
○		宝石学A-1 (カラーストーン講義)	宝石の鑑別方法や、宝石を色別にそれぞれの特徴を価格の違い等も含め学習する。	3 通	56		△		○	○		○		
○		学外研修	ジュエリー・宝石関連等の販売会・美術館・展示会場等の見学または参加を通じて、デザイン・制作知識および生産・流通・販売等の業界知識について学習する。	3 通	16				○			○	○	
	○	自主研修／自由制作	習得した技術をさらに向上させるため、自主的に研究・学習する。	3 通	136				○	○		○		
アドバンスドジュエリー専攻														
	○	デザイン基礎実習Ⅳ－1 (レンダリング 応用Ⅱ)	ハイライトレンダを使用してオリジナルなジュエリーを制作する手順を学習する。	4 前	32				○	○		○		
	○	デザイン造形実習Ⅳ－1 (プレゼンテーションⅠ)	自分の分析および自分の求めるジュエリーについて考えをまとめ発表する手順を学習する。	4 前	56				○	○		○		
	○	デザイン造形実習Ⅳ－2 (プレゼンテーションⅡ)	制作した新素材、新技術の研究発表をまとめプレゼンテーションする方法を学習する。	4 後	64				○	○		○		

	○		デザイン造形実習Ⅳ－3 (テーマからのデザイン展開)	古からの美術、技術、デザインを現代のジュエリーデザインに展開する方法を学習する。	4 後	64					○	○		○			
	○		デザイン造形実Ⅳ－4 (コンテスト用デザイン)	ジュエリーデザインコンペに応募する為のデザイン画の描き方を学習する。	4 後	32					○	○		○			
	○		メイキング基礎実習Ⅳ－1 (溶接実習)	レーザー溶接機、及び、アクアウェルダの使い方の基礎を学習する。	4 前	32					○	○		○			
	○		メイキング造形実習Ⅳ－1 (新技術・新素材の研究)	新素材・新技術を目指し、発掘・開発・組み合わせなどを研究し、制作する工程を学習する。	4 前	168					○	○		○			
	○		メイキング造形実習Ⅳ－2 (宝石のカッティング/ジュエリー制作)	オリジナルカットの宝石を研磨し、それを生かしたジュエリーを制作する工程を学習する。	4 後	128					○	○		○			
	○		メイキング造形実習Ⅳ－3 (打ち出し技法 応用)	軟鉄を使用し、打ち出しによるジュエリーを制作する工程を学習する。	4 前	64					○	○		○			
○			卒業制作および講評会	4年間の集大成として、知識、技術、思考力を生かし、オリジナル作品を制作することを学習する。作品は卒業制作展にて発表する。	4 後	432		△			○	○		○			
○			ビジネス講義Ⅳ-1 (企業セミナー)	ジュエリー業界の様々な分野の方の話を直接聞く事により、ジュエリー業界の実際を広く学習する。	4 前	32		○						○		○	
○			学外研修	ジュエリー・宝石関連等の販売会・美術館・展示会場等の見学または参加を通じて、デザイン・制作知識および生産・流通・販売等の業界知識について学習する。	4 通	32					○			○	○		
○			特別セミナーⅡ	卒業後の企業就職や独立に向けて、社会人としてのモノ作りとの取り組み方について学習する。	4 後	4		○						○		○	
○			卒業テスト	ジュエリーの制作・デザイン・宝石・ビジネスに関わる知識を試験を通して確認する。	4 後	4					○	○		○			
		○	自主研修／自由制作	習得した技術をさらに向上させるため、自主的に研究・学習する。	4 通	136					○	○		○			
インスティテュート専攻																	
	○		デザイン基礎実習Ⅳ－1 (プロモーション/PCスキル)	画像編集ソフトの操作方法を学び、自己のプロモーション方法を学習する。	4 前	40					○	○		○			
	○		デザイン基礎実習Ⅳ－2 (プレゼンテーション)	自身の創作活動や考え方などを自己作品を素材としてビジュアルにまとめることによりプレゼンテーションのスキルを身につけることを学習する。	4 前	48					○	○		○			
	○		デザイン造形実習Ⅳ－1 (リサーチブック)	自身で収集した資料から研究対象を見つけ、日常の中にある創造性を可視化する1冊のブックを製本作成することを学習する。	4 前	136					○	○		○			
	○		メイキング基礎実習Ⅳ－1 (鍛造技法)	鍛造技術を用いて、木目調の模様を持つ鋼「ダマスカス鋼」の鍛錬方法を学習する。	4 前	32					○	○		○			

○	○	○	メーキング基礎実習Ⅳ-2 (学外での海外作家ワークショップ)	海外からアーティストやデザイナーを招聘し、校外施設で行うワークショップ。新しいアイデアの抽出方法や発想方法を学習する。	4 前	32					○	○		○			
○	○	○	メーキング基礎実習Ⅳ-3 (芝山細工技法)	江戸時代より伝わる日本の伝統技法。天然素材同士を象嵌する技法「芝山細工」を実習する。	4 前	64					○	○		○			
○	○	○	メーキング造形実習Ⅳ-1 (リサーチブックからの作品制作)	デザイン造形実習Ⅳ-1で製本したブックのアイデア要素から作品展開し実制作する。イメージから実際の作品になるまでのプロセスを学習する。	4 前	128					○	○		○			
○	○	○	メーキング造形実習Ⅳ-2 (展示販売会商品制作)	商品性を重視した制作授業。学内で仮設空間を設営し販売まで行い、デザインから生産、販売までの一連の流れを学習する。	4 後	120					○	○		○			
○	○	○	卒業制作および講評会	4年間の集大成として、知識、技術、思考力を生かし、オリジナル作品を制作することを学習する。作品は卒業制作展にて発表する。	4 後	400		△			○	○		○			
○	○	○	ビジネス講義Ⅳ-1 (企業セミナー)	ジュエリー業界の様々な分野の方の話を直接聞く事により、ジュエリー業界の実際を広く学習する。	4 前	32		○						○		○	
○	○	○	コミュニケーション演習 (英会話)	英会話の基礎から日常会話、プレゼンテーション方法について学習する。	4 通	64			○			○		○			
○	○	○	教育実習	授業サポートを通じて指導側の立場を体験することで、コミュニケーション力を身につけることを学習する。	4 通	40					○	○		○			
○	○	○	学外研修	ジュエリー・宝石関連等の販売会・美術館・展示会場等の見学または参加を通じて、デザイン・制作知識および生産・流通・販売等の業界知識について学習する。	4 通	40					○			○	○		
○	○	○	特別セミナーⅡ	卒業後の企業就職や独立に向けて、社会人としてのモノ作りとの取り組み方について学習する。	4 後	4		○						○		○	
○	○	○	卒業テスト	ジュエリーの制作・デザイン・宝石・ビジネスに関わる知識を試験を通して確認する。	4 後	4					○	○		○			
○	○	○	自主研修／自由制作	習得した技術をさらに向上させるため、自主的に研究・学習する。	4 通	136					○	○		○			
合計				89	科目	6408	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件＝卒業までに必要な履修科目をすべて履修していること。 必修科目のすべてを履修していること。自由選択科目は対象外。 履修方法＝課題物評価では『F』以外、試験では70点以上で履修となる。		1 学年の学期区分	2 期
		1 学期の授業期間	26 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。